

竹中一郎 活動報告

市議会定例会ごとに必ず本会議において 一般質問と討論で登壇しています

質問と答弁を市議会報告の裏面に掲載しています

令和2年 第1回定例会

中央公園における賑わい創出について

問 令和2年度当初予算において、中央公園をコンベンションやイベントを誘致できる公園にするため、中園町周辺地区整備事業の予算が計上されている。中央公園の活用は賑わいの創出につながると期待している。具体的にどのような整備がなされ、それにより、どのようなビジョンを描かれているのか。

政治家が
身を切る改革
議員定数の削減
!!

本会議における発言の映像を閲覧できます

竹中一郎公式サイトから市議会中継にアクセスすると過去の一般質問及び答弁をご覧いただけます。

竹中一郎 山口市議会議員 竹中一郎 公式サイト **CLICK!**

山口市議会中継

録画配信を見る

キーワード検索 + 竹中一郎

CLICK!



中央公園で開催されるイベントのイメージ図
※インターネット中継ではカラーでご覧いただけます。

答 多様なニーズに対応でき、より快適なイベント空間としての活用の幅をさらに広げるため、イベント設営の利便性が高まる給排水や給電設備を整備する。さらに既存の公衆トイレの高質化などを図り、にぎわい創出に資するイベント開催のための空間整備にとりかかる。中央公園が本市を代表する世界的な文化施設である YCAM を背景とした、おしゃれで上質な創造的な都市空間として描いている。

平日の毎朝及び
土日・祝日の午後、
御堀橋(大内)で辻立ち



気軽に声をかけて下さい。

経歴

山口市議会議員
昭和 39 年 7 月 21 日生
白石小学校
附属中学校
山口高校 (管弦楽部)
福岡大学 卒業

毎日更新しています!



市議会報告は定例会ごとに発行しています
バックナンバーはHPで閲覧できます

発行責任者

山口市議会議員 **竹中一郎**

<http://takenakaichiro.com/>

〒753-0251 山口市大内千坊2丁目16-5

令和2年第1回定例会での質問と答弁

山口市文化創造ビジョン(案)について

問 市民の文化・芸術に対する誇りや愛着を育むためには、市民へ向けたわかりやすい情報の発信が必要と考えるが、文化施設にデジタルサイネージ(電子看板)を設置して、周辺地域の文化施設の催しもの等の情報提供をしてはどうか。

答 市報や市のウェブサイト、民間の地域情報誌等への掲載や報道機関への情報提供による一元的な情報発信をしている。各施設独自の広報誌、Facebook や Twitter などの SNS、テレビやラジオへの出演による周知、および各関係機関や施設等へのポスター掲示、チラシ設置等により、常に市民の皆様が情報を得やすい環境づくりに努めている。デジタルサイネージを活用した情報発信についても有効な手段と考えられるので、今後検討してまいりたい。

問 アーティスト志望者を地域おこし協力隊として採用し、街なかアート活動をミッションとして与え、都市空間をアート表現の場としてみてはどうか。

答 アートと暮らしをつなぐ人材の育成や、市内のアーティストの才能や創造性が発揮される仕組みづくりの中で研究させていただくとともに、都市空間がアート表現の場となり、暮らしの身近にアートがある潤いのある環境づくりについても、地域や市民の皆様、文化団体等と連携し、取り組んでいく。

問 賑わい創出に向けた文化的価値の向上プロジェクトとして、ユニークベニュー(特別な空間)、歴史的建造物や公園などの文化的空間の活用について、神社仏閣での演奏会等は文化・芸術の普及に貢献できると期待している。山口都市核の大内文化ゾーン、中心市街地ゾーンにおいて取り組む考えはないか。

答 歴史的建造物が集積する大内文化ゾーンや中央公園などにおいて、国内外から人を呼び込む「アートと食」をテーマとするイベント等の開催や、レセプション会場としての活用等により、それぞれの地域特性を生かした特別感を演出し、本市の文化的な魅力や価値をさらに高めてまいりたいと考えている。

救急車と医療機関との連携強化に向けたICTの導入について

問 令和2年度予算に救急車と医療機関との連携強化に向けたICT導入経費として600万円が計上されている。救急車内において、患者さんの情報を医療機関と共有するシステムということであるが、システムの具体的な内容と導入の効果を伺う。

答 この(仮称)「やまぐち AD ネット+(プラス)」は、医師と会話しながら、映像、画像など、多くの情報を、早い段階で、正確に医療機関と共有することが可能となるシステム。共有する情報は「心電図等の情報」「けがの状況等の視覚情報」「傷病者の氏名等の基本情報」であり、救急搬送の受入れ可否の判断の迅速化、病院における専門治療の事前準備、医師から救急隊への適切な助言に繋がる等の効果を期待している。

ヤマグチ エーディーネット プラス
◆ (仮称)やまぐちADネット + (医療機関連携機能強化システム)

救急車(Ambulance)から医師(Doctor)に向けて、タブレット端末と高性能カメラによる新たな通信システムが、正確で迅速な情報伝達を可能とします。将来的な機能付加(Plus)も見据え、本事業を『仮)やまぐちADネット+』としてスタートさせます。

